

新約聖書の中の奥義 第17回 質問回答

□ 第五部「サタンの2つの奥義 と それを打ち破る神の8番目の奥義」アウトライン

- | | |
|--|-------------------------|
| A) サタンの奥義の第一 バビロンの奥義 黙 17 : 1~18
B) サタンの奥義の第二 不法と不法の人の奥義 IIテサ 2 : 1~12
C) 神の8番目の奥義 サタンの奥義を打ち破ること
D) 総括：終わった | → 第17回では17章
1~8節を学んだ |
|--|-------------------------|

□ 第16・17回の内容

黙示録17章の位置づけは・・・

		区分	黙示録の箇所
①	大患難期の前に天で起きる事		4~5章
②	大患難期	7年間の全体の流れ	前半期
③			中間で起きる事
④			後半期
⑤		7年間の中で特に重要な	バビロンの二つの役割
⑥	ことをクローズアップ	メシアの再臨	17~18章
⑦	大患難期終了後に起きる事 (王国の準備期間)		19 : 20~21 20 : 1~5
⑧	メシアの王国【千年間】		20 : 6
⑨	メシアの王国の後の出来事		20 : 7~15
⑩	永遠の秩序【新しい天と新しい地】		21章~22 : 5

黙示録17章1~8節では・・・

1. バビロンの二つの役割、その第一は、世界統一宗教の本部所在地である。大患難期の前半期において、バビロンは宗教面で世界を支配する。政治権力もバビロンを支持する。大患難期に入る時点で世界の政治権力を握っているのは、10人の王たち。
2. 大患難期の中間で、10の王たちに対し、「獣=反キリスト」が挑戦する。8節で反キリストは「いたが、いない、やがて来る」、すなわち「一度死ぬが、よみがえる」と預言されている。反キリストは10人の王たちとの戦いの中で戦死するが、よみがえって3人の王を倒し、世界の支配権を握るであろう。

□ 第17回での質問・・・「獣」は、大患難期の前半では世界的な覇権国家としての「第四の国」を指し、大患難期の後半では「反キリスト」を指すとのことですが、具体的に黙示録の箇所のどこがそうなのか、教えてください。

回答：黙示録の中で「獣」がどちらを指すのか、箇所の順に、表で示します。

黙示録における「獣」

獣は世界的な覇権国家を象徴する。その統治形態の最終段階は、大患難期後半での「反キリスト」による世界支配。よって、大患難期の中間以降は、「第四の国=反キリスト」

章：節	覇権国家=ダニエル書「第四の国」	第四の国=反キリスト
11：7		二人の証人が、底知れぬ所（アブソス）から上って来る獣によって、殺される
13：1	海（異邦人世界）から上って来る獣	3節：七つの頭のうちの一つ
13：2	竜（サタン）が権威を与えた獣	
13：3		死んだと思われたが治り、全地が従う獣
13：4		竜（サタン）が権威を与え、人々が拝む獣
13：5		大言壮語して冒瀆のことばを語る獣、42か月の間（=3年半）活動する権威が与えられる獣
13：7		聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つ獣
13：7		あらゆる部族、民族、言語、国民を支配する権威が与えられた獣
13：7		地に住む者たちが拝む獣
13：12		最初の獣、致命的な傷が治った獣
13：14		剣の傷を受けながらも生き返ったあの獣
13：17		売り買いするための刻印は、あの獣の名
13：18		獣の数字は、666
14：9		獣とその像、獣の名の刻印（同じことを指す箇所=14：11、15：2、16：2、19：19、20：4）
16：10		獣の座、獣の王国
16：13		獣の口から汚れた霊が出て来る
17：3	緋色の獣（七つの頭と十本の角） 大患難期の前半で → この獣は、大淫婦=宗教的バビロンを、乗せている=支持している	
17：8		底知れぬ所（アブソス）から上って来る獣
17：11		八番目の王であり、七番目の頭である
17：12		一時だけ王としての権威を受ける獣
17：16		宗教的バビロンを倒す獣
19：19		再臨のメシアと戦う獣
19：20		捕らえられ、火の池に投げ込まれる獣
20：10		悪魔が火の池に投げ込まれるが、そこには先に、獣がいる

【補足】「地から上って来る別の獣」（13：11～17a）は、大患難期の後半において、人々に反キリストを拝ませる偽預言者（16：13、19：20、20：10）である。